



NISSHA

2023年12月期
第1四半期
決算説明会

2023年5月11日

NISSHA株式会社

代表取締役社長 兼 最高経営責任者

鈴木順也

2023年12月期 第1四半期の実績

- Tailwinds
 - メディカルテクノロジーはCDMO（開発製造受託）の需要が堅調、収益性は大幅改善
 - 産業資材（加飾分野）はモビリティ向けの需要が底堅く推移
- Headwinds
 - 巣ごもり消費の終焉やサプライチェーン在庫の調整などにより、需要環境が悪化
 - 産業資材（加飾分野）の家電向け、デバイスのタブレットや産業用端末向けの需要が減退

2023年12月期の見通し

- 上期および通期の業績予想を下方修正
 - Q1実績を反映、Q2以降の需要減速を織り込み
- H2は需要回復を見込む

トピックス

- 【サステナブル資材】 ドイツで新工場が稼働開始
- 【サステナブル資材】 PaperFoam Holding B.V.との資本業務提携、同社を持分法適用会社化
- 滋賀大学とDX推進に関する連携協定を締結

2023年12月期 Q1（3カ月）の実績

(百万円)

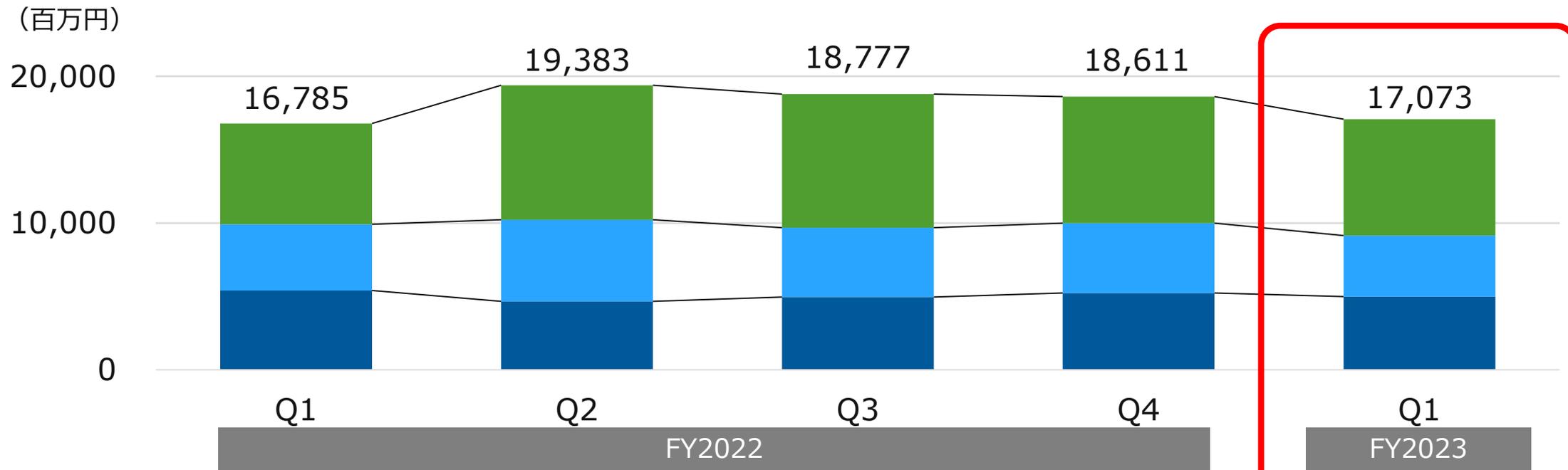
	2022 Q1 実績	2022 Q4 実績	2023 Q1 実績	2023 Q1	
				前年同期比 (2022 Q1比)	前四半期比 (2022 Q4比)
売上高	41,412	52,581	42,430	+2.5%	▲19.3%
産業資材	16,785	18,611	17,073	+1.7%	▲8.3%
デバイス	15,957	22,717	14,807	▲7.2%	▲34.8%
メディカルテクノロジー	6,685	8,976	8,525	+27.5%	▲5.0%
その他	1,983	2,276	2,024	+2.1%	▲11.1%
営業利益	2,494	※▲160	▲671	-	-
営業利益率	6.0%	-0.3%	-1.6%	-7.6pt	-1.3pt
産業資材	1,528	※▲1,139	519	▲66.0%	※黒字化
デバイス	1,422	1,747	▲868	-	-
メディカルテクノロジー	7	338	✓496	+6,627.5%	+46.7%
その他	▲464	▲1,107	▲818	-	-
税引前利益	3,565	▲1,576	▲791	-	-
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	3,280	▲1,677	▲784	-	-
為替レート	¥113/\$	¥143/\$	¥131/\$	-	-

産業資材

- 加飾 モビリティ向け：日米欧の製品需要が底堅く推移
- 加飾 家電・その他向け：巣ごもり消費の終焉で需要減退

用途別売上高

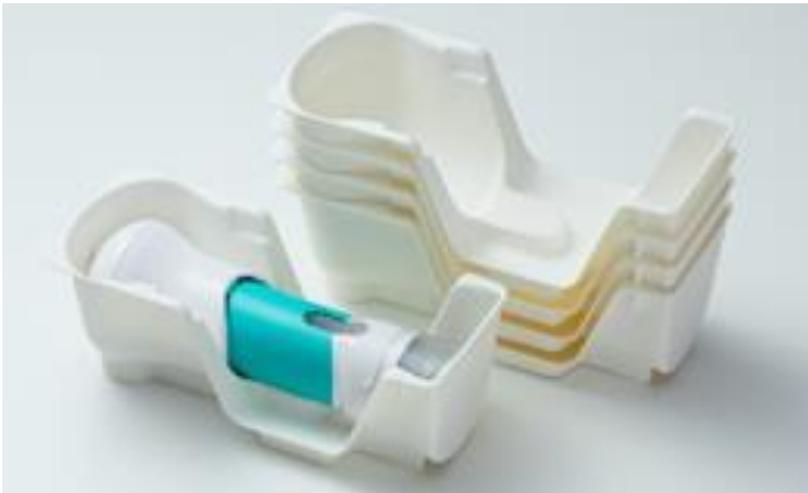
- サステナブル資材（蒸着紙など）
- 加飾（家電その他）
- 加飾（モビリティ）



ドイツで新工場が稼働開始

- サステナブル成形品※（既存製品）の生産能力の拡大 ※主に植物由来の材料を用いた環境にやさしい成形品
- Nissha Schuster（ドイツ）に7億円を投資
- 欧州の医薬品メーカー向けにパッケージ（自己注射器用トレー）を量産中

Pulp-Injection（既存製品）



特徴

薄い・硬い
複雑な形状

対象市場

医薬品・化粧品

NISSHA

Nissha Schuster（ドイツの射出成形工場）



PaperFoam Holding B.V. (オランダ) と 資本業務提携 (持分法適用会社化30%)

- サステナブル成形品の製品ラインアップを強化 (フルライン戦略)
- 対象市場を拡大
- PaperFoamとの共同開発による新製品開発

PaperFoam Holding B.V.の概要

本社	オランダ
生産拠点	オランダ、チェコ、アメリカ、マレーシア
社員数	233人 (2022年9月)
事業内容	環境にやさしいパルプ発泡成形品の開発・生産・販売

PaperFoam®の製品 (パルプ発泡成形品) **NEW**

特徴

緩衝性に優れる
複雑な形状

対象市場

医薬品・化粧品・家電
電子機器・日用品



当社のサステナブル成形品の売上高目標

■ 既存製品

■ 新製品 (本件など)

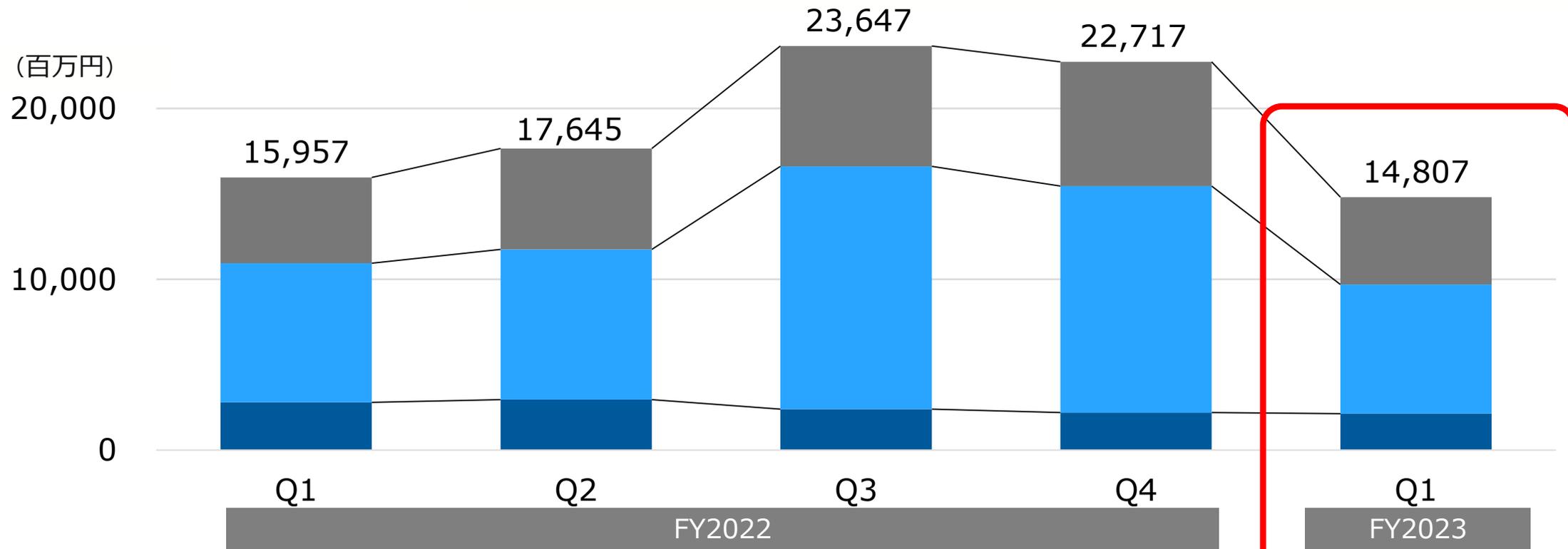


デバイス

- 巣ごもり消費の終焉やサプライチェーン在庫の調整により、タブレットや産業用端末向けの需要が低迷
- 2023Q1はタブレットのモデルミックス悪化が収益性に影響

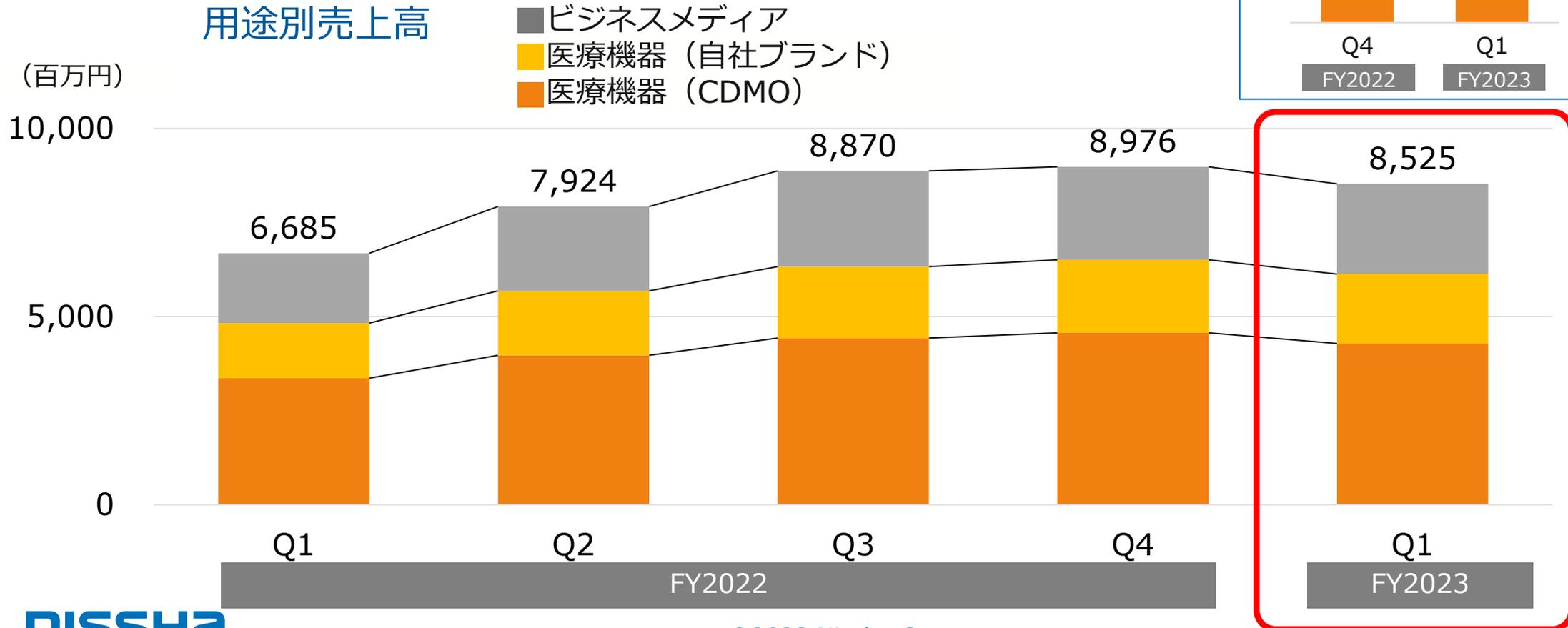
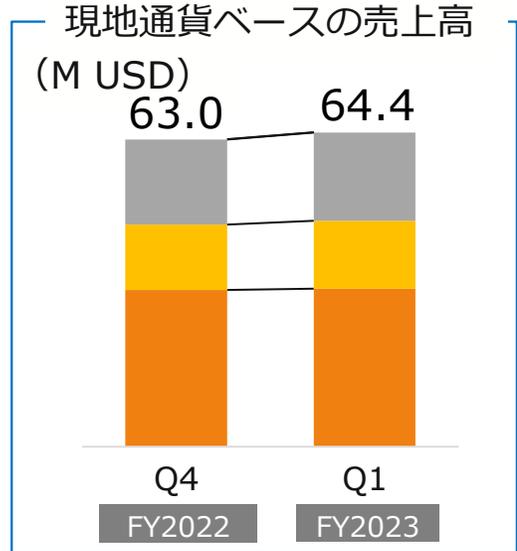
用途別売上高

- ゲーム機・産業用端末（物流関連）・モビリティ向け、ガスセンサーなど
- タブレット向け
- スマートフォン向け



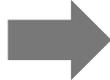
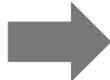
メディカルテクノロジー

- CDMOの需要は堅調
(2023Q1は為替影響により2022Q4比減収)
- 利益率が回復 (生産性・効率性の改善、ミックスの改善)



2023年見通しのアップデート

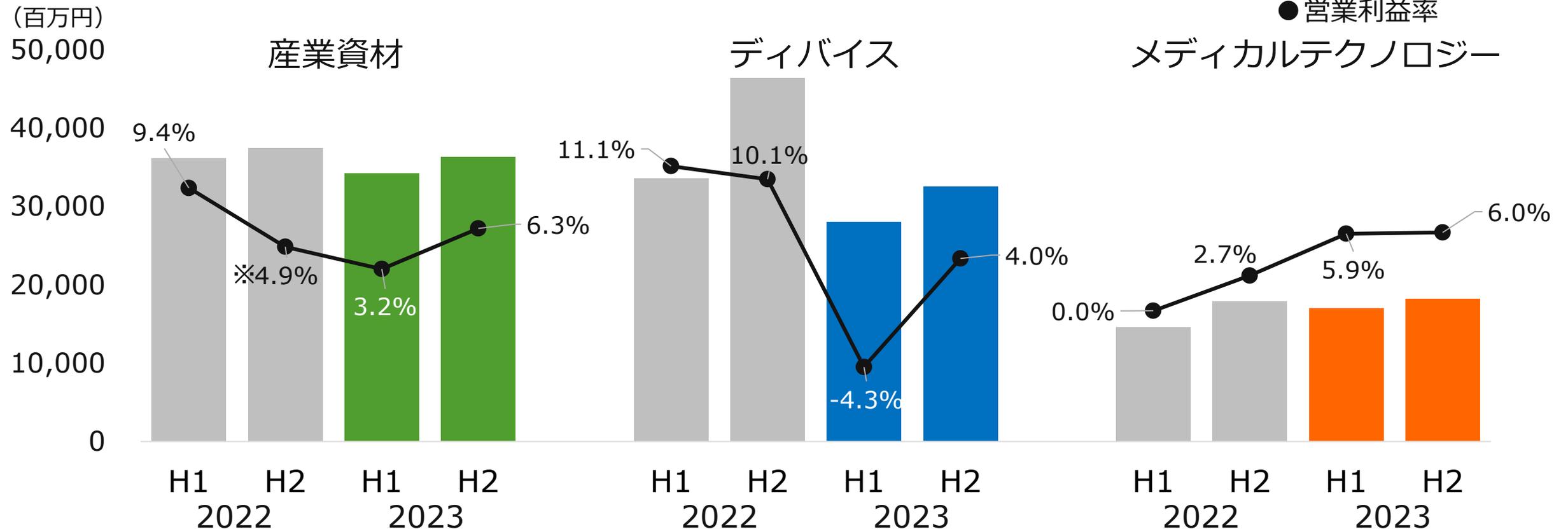
EMPOWERING YOUR VISION

事業	用途	期初の見通し (2/14) 2023通期 (2022年比)		最新の見通し 2023通期 (2022年比)	
産業資材	加飾 (モビリティ)		供給制約の影響から緩やかに回復		期初の見通しから変化なし
	加飾 (家電・その他)		需要は横ばい		巣ごもり消費終焉やインフレの影響で 期初想定より弱含んで推移
	サステナブル資材		需要は安定、 前年の値上げ効果が通年寄与		北米、南米地域で期初想定より弱含んで推移
デバイス	タブレット		H1は調整局面、H2に回復		✓ 需要の調整がH2に波及 Q2以降はモデルミックスが正常化
	産業用端末 (物流関連)		需要は横ばい		需要が期初想定より減速、弱含んで推移
メディカル テクノロジー	医療機器 (CDMO)		CDMO市場が成長、 当社CDMOの売上高CAGR26.8%*		期初の見通しから変化なし

2023年 業績予想 事業別

- 産業資材： 需要はH2に回復見込み、生産性の向上により収益性を改善
- デバイス： 需要はH2に回復見込み、来期タブレットの需要増加へ体制維持
- メディカルテクノロジー： CDMO需要の成長傾向を維持、収益性の改善継続

■ 売上高
● 営業利益率

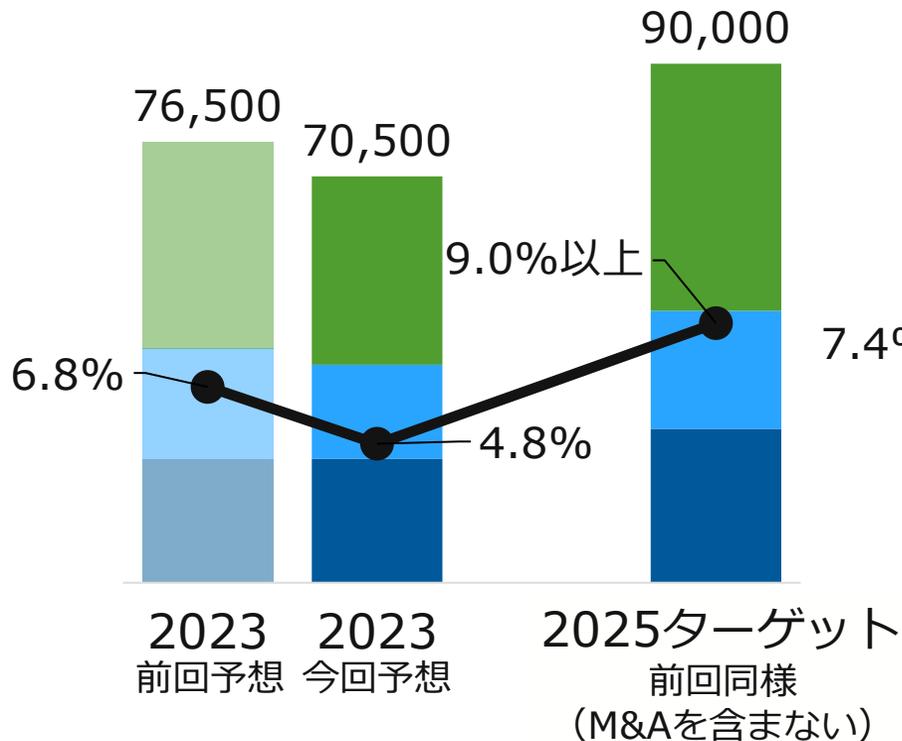


中期の展望（～2025年）は不変

- 事業機会、競争ポジションに変化なし
- 2023年2月14日公表の2025年のターゲットを目指す

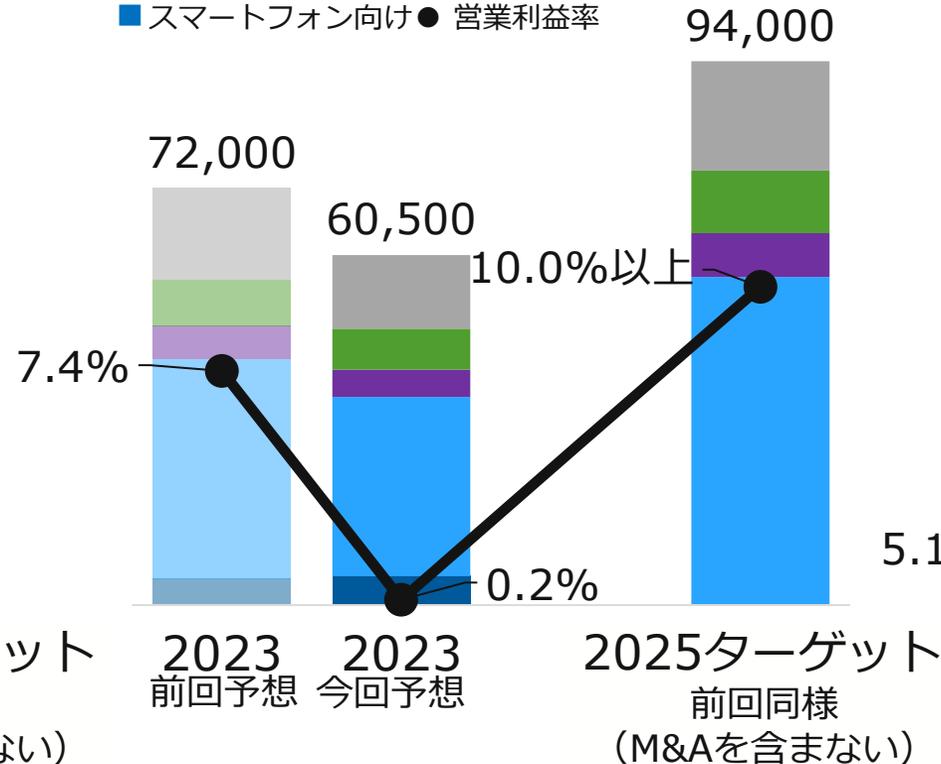
産業資材

■ サステナブル資材 ■ 加飾（家電その他）
■ 加飾（モビリティ） ● 営業利益率



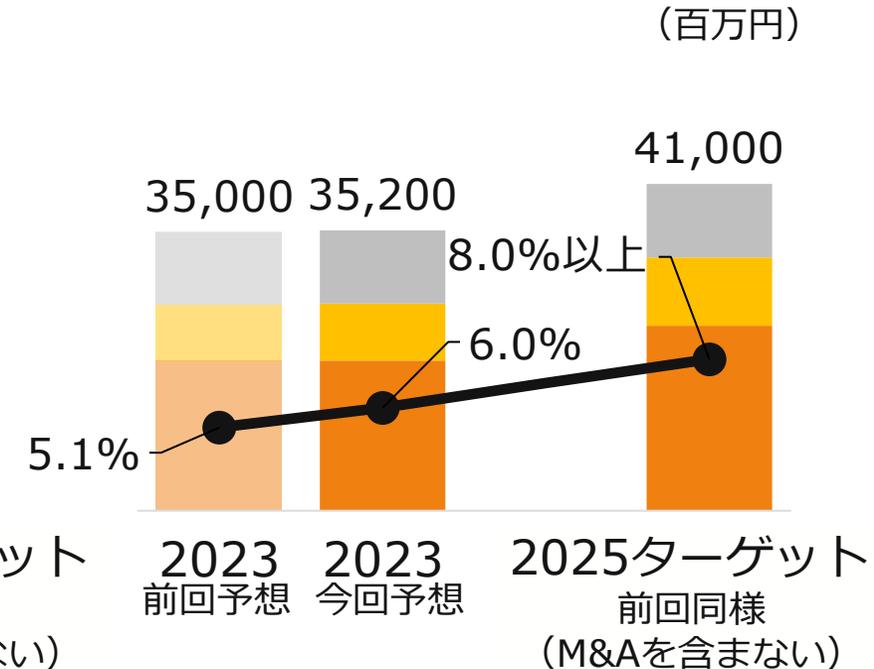
デバイス

■ その他 ■ ガスセンサー
■ モビリティ向け ■ タブレット向け
■ スマートフォン向け ● 営業利益率



メディカルテクノロジー

■ ビジネスメディア
■ 医療機器（自社ブランド）
■ 医療機器（CDMO） ● 営業利益率



滋賀大学とDX推進に関する連携協定を締結

●連携協定の狙い

- ビッグデータに基づく生産プロセスの自動化や各種業務の生産性向上など
- DX人材の交流（人材育成）



2023年5月8日

左：NISSHA 代表取締役社長 鈴木
右：滋賀大学 竹村学長

NISSHAのDX推進

- 生産性を向上
- お客さまに提供する付加価値を向上
- DX推進に向けた人材育成



滋賀大学

- 企業との共同研究の実績とノウハウの蓄積
- データサイエンティストの育成

業績予想の変更

(百万円)

	前回予想 (2/14発表)			今回予想 (5/11発表)		
	FY2023 通期 予想	FY2023 H1 予想	FY2023 H2 予想	FY2023 通期 予想	FY2023 H1 予想	FY2023 H2 予想
売上高	192,000	90,700	101,300	174,500	83,000	91,500
産業資材	76,500	37,600	38,900	70,500	34,200	36,300
デバイス	72,000	32,500	39,500	60,500	28,000	32,500
メディカルテクノロジー	35,000	16,800	18,200	35,200	17,000	18,200
その他	8,500	3,800	4,700	8,300	3,800	4,500
営業利益	9,000	3,200	5,800	2,500	▲ 800	3,300
営業利益率	4.7%	3.5%	5.7%	1.4%	-1.0%	3.6%
産業資材	5,200	2,400	2,800	3,400	1,100	✓ 2,300
デバイス	5,300	1,800	3,500	100	▲ 1,200	✓ 1,300
メディカルテクノロジー	1,800	800	1,000	2,100	1,000	1,100
その他	▲ 3,300	▲ 1,800	▲ 1,500	▲ 3,100	▲ 1,700	▲ 1,400
税引前利益	8,500	3,000	5,500	2,000	▲ 900	2,900
親会社の所有者に帰属する 当期（四半期）利益	6,200	2,200	4,000	1,000	▲ 1,100	2,100
為替レート	¥130/\$	¥130/\$	¥130/\$	¥130/\$	¥131/\$	¥130/\$

(ご参考)
設備投資・減価償却費及び償却費・M&A投資・
研究開発費（2023年）

(百万円)

	第1四半期 (1-3月) 実績
設備投資	1,817
減価償却費 及び償却費	2,250
M&A投資	2,611
研究開発費	1,095

本プレゼンテーションに掲載されている情報および決算説明会・カンファレンスで提供される情報のうち業績の目標、計画、見通し、戦略、その他過去の事実ではない情報については、現時点で入手可能な情報に基づいて当社の経営者が合理的と判断したもので、リスクや不確実性を含みます。実際の業績は、経済動向、市場需要、為替の変動などのさまざまな要因によって大きく変わる可能性があります。